



富山県

No.65 2012年10月

# 中央植物園だより



## トウワタ

マメのさやのような果実をつけるトウワタですが、秋に果実が裂開すると中から白い綿毛を付けた種子が飛び出します。写真は、秋の陽の中、この種子が2つ綿毛で結ばれて遊んでいるかのようです。

「やじろべえ」撮影/小柴一夫さん（第15回私の植物写真展応募作品）



## 第6回 秋のラン展 11月23日(金)~25日(日)

富山県中央植物園では、毎年11月に富山県蘭協会との共催により「秋のラン展」を開催しています。この季節にラン展を開催するのは、カンラン（寒蘭）がちょうど見ごろを迎えるからです。今回の展示では、特別展として優れた園芸品種を輩出している紀州（和歌山県）産のカンランを中心に展示の予定です。その他、カトレアやデンドロビウムなどの洋ランも展示いたします。秋に咲くランの世界をお楽しみ下さい。

BOTANIC GARDENS OF TOYAMA

# 特別展「富山県の絶滅危惧植物」

今年8月に富山県から発行された「レッドデータブックとやま2012」の紹介を兼ねて、中央植物園では8月31日（金）～11月21日（水）の間、サンライトホールで特別展「富山県の絶滅危惧植物」を行なっております。

「レッドデータブックとやま2012」では、前版の発行（2002年）から10年が経過し、生き物を取り巻く環境の変化に伴い、現状に即した種の選定と適切なカテゴリー区分を行い全面的な見直し調査が行な



特別展に並んだ各地のレッドデータブック

われ、植物園も調査・取りまとめに協力しました。植物については前版に376種が掲載されましたが、今回は439種が記載されました。

今回の特別展ではこの中から おもな50種を取り上げ、ポスターやパネルで紹介するとともに、開催期間中に開花する一部の植物も一緒に展示しており、富山県の絶滅危惧植物をより身近に感じていただけるようにしております。



涼しげな青い花のミズアオイ

特に富山県でしか野生状態を見ることのできない植物にエッチュウミセバヤがあり、「レッドデータブックとやま2012」では絶滅危惧Ⅱ

類にランクされています。

このエッチュウミセバヤは10月頃、茎の先端に淡い赤紫色をした小さな花をたくさん咲かせ、その姿は半球形に見えます。かわいいエッチュウミセバヤの花をぜひご覧ください。



岩場に咲くエッチュウミセバヤ

## 中央植物園のこんなところ紹介 実習室

中央植物園の管理研修棟2階には、実習室と研修室があり、実習室では実験や作業を伴うような実習ができます。

実習室には大きな机が4台あり、この机を囲んで6人が座ることができます。また天井には吊り下げ式の電源コンセントがあるので、光源内蔵型の光学顕微鏡を使った顕微鏡講習会などが実施されており、講習会の時は子どもたちで賑わっています。さらに実習室の窓際には水道もあるので、これを使って友の会のきのこ染め講習会なども行なわれています。

実習室は植物園の行事等で使用の日以外でしたら、一般の方でも事前申込みのうえ利用することができます。

全日使用した場合の利用料金は4,200円、午前だけや午後だけの場合は割引があります。申込みや詳しいことは中央植物園へ電話でお問い合わせください。



実習室を使った植物園クラブの活動

## 植物園トピックス 熱帯果樹の模型

熱帯の果樹には面白い形をしているものがあり、実っている果実の実物をご覧いただくことが一番良いのですが、季節や植物の成長状態などのために、常に展示することができません。そこで植物園のスタッフが頭をひねり、実物そっくりの果実模型を置くことにしました。

この模型はパラミツの果実で、発泡スチロールの大きな塊を削り出して外形を作り、この上に丹念な彩色がされているので、本物そっくりな質感に仕上がっています。パラミツは、英語ではジャックフルーツと呼ばれ、果実は幹に直接ぶら下がり、その実った姿は非常に印象的で、大きくなると1個で40-50kgにもなるため、世界最大の果実とされています。



## 研究紹介◎『多彩なトウツバキの園芸品種』

主任 志内 利明

「トウツバキ園芸品種保全のための日中共同研究」をテーマとして2008年から始まった雲南省の昆明植物研究所との共同研究では、樹齢数百年にもなるトウツバキの園芸品種の原木などを調査しました。これらの園芸品種は、現在200品種以上あるといわれています。

トウツバキ (*Camellia reticulata* Lindl.) は中国の雲南省、四川省、貴州省に自生し、原種の花は日本のヤブツバキとよく似ており、花弁は赤く、花弁数も5枚程度です。しかしトウツバキ園芸品種‘菊弁’は花弁数が56枚もあり、‘大理茶’は花の直径が20cmをこえる大きさになります。園芸化するには、最初はトウツバキの自生地では花のサイズや色の違うものから、人が選抜してきたはずで、多様な園芸品種の元となった自生地はどこで、どんな状況なのだろうか、そんな疑問を抱いていました。

その折、中国雲南省の大理市と楚雄市でトウツバキの自生する場所に多様な花形を持つ集団があることを聞き、調査することができました。そこは野生集団内に様々な花形をもつものが混じり合う場所で、花のサイズも野生種より大きく、花色も白色から桃色、濃い赤色まで様々な個体が見られ、

花弁数は最大で17枚のものが見つかるなど、明らかに野生種とは違う美しい花を咲かせる個体の混じる集団でした。ところが、調査した場所は荒廃していて分かりにくかったのですが、どちらもかつて寺院があった場所でした。雲南省の中部から北西部の寺院では数百年以上前からトウツバキを“御神木”として植栽する慣例があり、古いものでは、800年以上前のトウツバキの園芸品種‘相国茶’が残されているなど、園芸品種の作出も盛んだったようです。楚雄市の調査地では地震や内乱などで寺院が破壊された記録が残されており、寺院が焼失し、僧侶が不在となった後に、野生種と異なる花が野外で花を咲かせていることがわかりました。おそらくかつて栽培されていた園芸種との自由な交配により多様な個体が出現したと考えられます。

今回の調査では、自然な変異集団ではなく人為的影響のある集団と考えられましたが、自由交配による花形の多様化した集団の存在が確認できました。調査した地域付近からは、今でも、美しい花をつける個体が見つげ出され、新たに品種登録されています。まだ多くの園芸的価値の高い遺伝的資源が眠っているのでしょう。



“御神木”として石洞寺に植栽されたトウツバキ‘獅子頭’



楚雄市で確認した集団内の多様な花形

# 植物園の植物紹介6

## 屋外展示園の植物

## メタセコイア



メタセコイアの紅葉

メタセコイアは中国西南部原産のスギ科メタセコイア属の落葉樹です。その昔化石として世界各地で出土していたのですが、1945年に中国四川省の揚子江支流で生きた状態で発見されて、「生きた化石」として有名になりました。日本には1950年に苗木100本が導入された記録があります。植物園内のメタセコイアは今から約40年前の県緑化センター時代に植えられたもののようですが、今では樹高18mぐらまで成長しました。

裸子植物のイチヨウやカラマツなどは紅葉することで一般に知られていますが、このメタセコイアやヌマスギも紅葉してから、初冬には側枝ごと落葉します。

見られる場所：球根のエリア（世界の植物ゾーン）

展示園課 山下寿之

## 催し物のご案内

■企画展示 サンライトホール  
企画展には入園料が必要です。

### 特別展

「富山県の絶滅危惧植物」

8月31日（金）～11月21日（水）

第6回「秋のラン展」

11月23日（金・祝）～11月25日（日）

「クリスマスの植物」

11月30日（金）～12月25日（火）

「干支にちなんだ植物展」

12月14日（金）～1月23日（水）

### ■講演会

世界に植物遺伝子資源を求めて

10月14日（日）13:00～16:00

会場：サンライトホール

### ■特別開園

花とみどり・クリスマスフェア

12月7日（金）～9日（日）

### ■講座・講習会

きこの観察会

◆申込は頼成の森へ

TEL0763-37-1540

10月13日（土）9:30～13:00

### ★栽培講習会②

「ランの栽培と管理」

11月24日（土）13:30～15:00

11月25日（日）13:30～15:00

「植物園でバードウォッチング」

12月9日（日）9:00～11:00

### ■月例行事

緑のコンサート

10月・11月の第1土曜日

14:00～15:00

集合場所／サンライトホール

参加費／入園料が必要

### 植物ガイド

毎週日曜日 13:30～14:00

集合場所／サンライトホール

参加費／入園料が必要

### ◎要申込

事前の申込が必要です。前日までに「電話」でお申込みください。

### ◆要申込

事前の申込が必要です。申込は1ヶ月前から往復はがき・FAX・メール（botanic@bgtym.org）で受け付けます。

★印は植物園ボランティアの養成講座です

## 富山県中央植物園 入園案内

開園時間 9:00～17:00(入園は16:30まで)  
(11月～1月は9:00～16:30、入園は16:00まで)  
休園日 毎週木曜日(4月と祝日の場合は開園)、  
年末年始(12月28日～1月4日)

入園料 大人(一般および大学生) 500円  
団体料金(20名以上) 400円  
高校生以下無料  
冬季入園料(12月～2月)  
大人(一般および大学生) 300円  
団体料金(20名以上) 240円  
高校生以下無料  
年間パスポート(購入日より1年間有効)2,000円

交通案内 JR富山駅から、富山地鉄バス「ファボーレ」経由萩の島循環または「ファボーレ」経由速星行き(休日のみ)に乗り「中央植物園口」停留所下車、徒歩約12分/富山市中心部より車で約15分/北陸自動車道富山インターより車で約15分/JR速星駅より車で約8分

## 富山県中央植物園だより No.65

編集・発行/富山県中央植物園(指定管理者:公益財団法人 花と緑の銀行)  
〒939-2713 富山市婦中町上善田42 TEL 076-466-4187 <http://www.bgtym.org>  
平成24年9月20日発行 印刷/北日本印刷株式会社